KITA
Kitakyushu International Techno-cooperative Association

KITAニュース

第35号
2011 January
No.35

目 次

2頁　河野理事長退任挨拶
3頁　古野理事長就任挨拶
4頁　帰国研修員の活躍
5頁　研修コース紹介
7頁　最近6カ月間に終了した研修コース
8頁　海外での活動状況
　　●ロシア、フィリピン、ベトナム
10頁　北九州メンテナンス技術研究会（KME）の活動報告
11頁　KITAの国際親善交流
12頁　TOPICS

現場第一主義に沿った研修

KITAは、現場見学や実習のカリキュラムを多く採り入れ、実際に「観て、触って、確かめる」研修を重視しています。

「生産保全によるクリーナープロダクション」コースでは、研修員に回転機器の設備診断や整備訓練など体験して貰っています。

KITAが行うこのような実践的な研修が研修員にも好評で大きな成果をあげています。

財団法人 北九州国際技術協力協会

退任挨拶

（財）北九州国際技術協力協会
理事長
河　野　拓　夫
（平成22年12月31日付退任）

昨年末をもちましてKITAの理事長を退任いたしました。

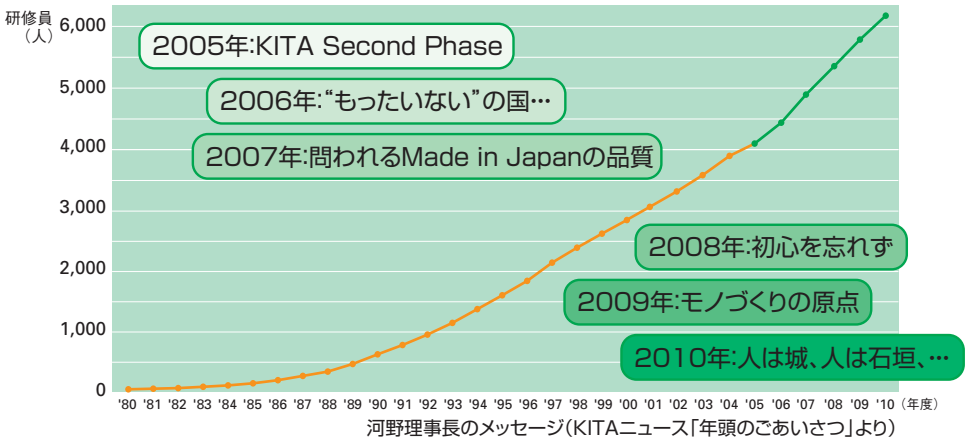
この6年間皆様方からいただいた暖かいご支援に心からお礼申し上げます。在任中、私が一貫して意識して来た事は、KITAの活動は“世界の平和と自然との共生”という大きな目的に繋がるものであるとの思いでありました。

振り返れば、もともと北九州には中国大陸をはじめ東南アジアに向かってのゲートウェイとして長い歴史があり、市民の血には国際交流に積極的なDNAが脈々として流れています。KITAはこのような風土のもとで誕生し市民の皆さんの温かいご支援の中で育まれてまいりました。昨年は創立30周年を迎え、受け入れた研修員は137カ国6100人を超えるまでに成長しました。世界各国から来た研修員とともに、私も環境、省エネ、クリーナープロダクション、3Rなどを学び、さまざまな体験をさせていただきました。研修員はただ学科を学ぶだけでなく家庭訪問、お茶の会などを通じて日本の文化にも触れ、日本人の清潔好き、几帳面さ、親切さなど貴重な印象を持って帰国します。彼らが閉講式で謝辞を述べるにあたって、感極まり涙ぐむ場面にも度々出会いました。寝食を共にし、共に学んだ数か月の研修の中で、肌の色の違い、宗教・言葉の障壁を乗り越えて芽生えた心と心の絆は将来世界の平和に必ず役立つ日が来ると信じています。

創設以来25年間、卓越した企画力・指導力を発揮された水野前理事長、そして自らの使命と信じてKITAの発展に貢献されて来たスタッフの方々に心から敬意を払うとともに感謝の意を表します。しかしながら世の中は一瞬も立ち止まることなく常に変化しています。KITAとしては、新しい理事長を迎え、心を新たに改革に取り組む事が大切であります。

おわりに、ここまで暖かくKITAを産み育ててくださった北九州の産官学の皆様に感謝の意を表するとともに、これからの更なるご支援ご協力をお願いして退任のご挨拶とさせていただきます。

●河野理事長6年間の思い



河野理事長のメッセージ（KITAニュース「年頭のごあいさつ」より）

就任挨拶

（財）北九州国際技術協力協会
理事長
古　野　英　樹
（平成23年1月1日付就任）

あけましておめでとうございます。本年も皆様にとって良い年であることを心から祈念いたします。

このたび、河野前理事長の後を受けてKITA理事長に就任いたしました古野です。

1980年のＫＩＴＡ設立趣意書は「北九州に集積された産業技術を持って国際的な研修の場の提供と必要な教程の整備・補充・拡大、更に発展途上国との相互発展の理念に基づいた国際協力実現」と設立の所以を謳っています。今日までのＫＩＴＡの実績はNGOとして多くの皆さんのボランティア活動の上に築き上げられ、水野初代理事長、河野前理事長のリーダーシップの元、輝かしい実績を収めてまいりました。そのような両理事長の後を継ぐことは、誠に過分なことと思いましたが、旧八幡市に生まれ、今日まで北九州の産業発展に深く係わってきた私の天命と思いお引き受けしました。

開発途上国は目覚しい速度で発展しつつあります、緩やかに流れていた時代とは異なり、社会基盤が整わない中で一気に最新技術・設備が導入され、環境保全との調和や持続的発展の維持がなされないままになりがちです。

これからのＫＩＴＡの使命は創立の精神を継承し、限りある資源と人類社会の共生、すなわち工業の発展と環境保全の調和に貢献することだと思っています。全力を投入してまいりますので多くの皆様の支援をよろしくお願い申し上げます。

KITA新理事長 古野 英樹略歴

昭和19年生まれ

昭和45年4月　九州大学大学院工学研究科冶金学科卒	
昭和45年4月　新日本製鐵（株）入社	
平成15年4月　同社 常務取締役八幡製鐵所長就任	
平成18年6月　黒崎播磨（株）代表取締役社長就任	
平成22年4月　同社 取締役相談役就任	

現（就任順）

（財）北九州国際技術協力協会理事
（社）西日本工業倶楽部副理事長
（医）新日鉄八幡記念病院理事
（職）北九州地区職業訓練協会会長

「マレーシア職業訓練校の5S活動研修」フォローアップ ～アクションプランを着々と推進中～

KITAコースリーダー　力丸　俊二

マレーシアの職業訓練校*の教育が真の企業ニーズに適合し、併せて同校卒業生の就職率アップを実現するため、所管官庁の人的資源省は訓練校への5S**活動導入を決めました。また、その支援をJICAに依頼してきました。

JICA/KITAは、一昨年2月中旬から1カ月間、職業訓練校（5Sモデル校）から研修員8名を受け入れ、企業の現場監督者などとなって活躍できるよう、5Sと改善を行う手法としてIEやQC、5S取り組みの現場を知るため日本企業4社の訪問などの研修を実施しました。また、アクションプラン（AP）として各訓練校での5Sの進め方について3年計画を作成して貰いました。

今回、帰国後研修員の活動状況をフォローアップするようJICAから依頼があり、昨年7月現地を訪問しました。私は各訓練校の5Sの火が消えてしまったのではと、危惧して出向きましたが、直接話を聞いて、全くの杞憂であったことが分かりました。右記写真が示すように、APが確実に進められていて、嬉しかったです。

今後の課題は、モデル8校から、さらに残りの訓練校への展開をどう進めるかであり、この点について今回のフォローアップでは、私は色々の障害の乗り越え方をアドバイスするとともにステップバイステップに、また継続的に進めるよう指導しました。将来マレーシア訓練校の5Sがどう進展し、訓練生の就職率が向上することを楽しみに、見守ってゆきたいと思っています。

*マレーシアの職業訓練校：現在27校（うち、8校の5Sモデル校が本研修の対象）で近い将来30校に増える計画だそうです。

**5S：整理、整頓、清掃、清潔、しつけ

モデル職業訓練校での5S説明・PR風景

モデル職業訓練校での5S改善後の一例

「鉄鋼業におけるCP*」フォローアップ ～インドネシアKrakatau Steelで活躍中の帰国研修員～

KITAコースリーダー　上野　正勝

昨年5月、私はベトナム・ホーチミン市で開催された東南アジア鉄鋼連盟2010年次大会に出席しました。その後、掲題コース研修員の帰国後の活躍状況を知りたくてインドネシアにある東南アジア最大の銑鋼一貫（直接還元－電気炉プロセス）鉄鋼会社 Krakatau Steelを訪問しました。訪問当日、会社幹部はもちろん多くの帰国研修員から歓迎を受け、研修成果活用状況報告会が始まりました。

同報告会では、2006～2008年度の本コースで研修した2人の発表が印象的でした。一人は生産性向上のために、研修で学んだ酸素吹き込み技術を導入した電気炉改造を実行中であるとの報告がありました。また、“省資源や環境保護の必要性”を心底理解し帰国したアリフ氏からは、社員はもちろん地域住民まで含めて展開している環境保護活動（植林や珊瑚礁の保護）の報告がありました。その活動の幅広さと成果の素晴らしさに深く感銘すると同時に、研修成果は着実に根づき始めたことを実感しました。

報告会前日には帰国研修員達による歓迎夕食会を開催していただき、夕食会後は自宅にも案内され和気あいあいの会話が続きました。もちろん、酒なし（回教国）です。彼の家には日本で購入したおみやげが大切に飾られていました。研修は本人にとってはもちろんのこと、家族にとっても重要なイベントであったことがよく分かりました。

今回の訪問で研修の意義と重要さを改めて認識し、豊かな気持で帰国することができました。

*CP：クリーナープロダクション

アリフ氏が推進している環境保護運動の一つのマングローブの植林活動

帰国研修員達による歓迎夕食会の後、自宅に招待されて歓談

「韓国中小企業向け環境・省エネルギー経営者セミナー」を終えて

KITAコースリーダー　石井　武明

環境経営・省エネ成否の鍵は経営者層の理解・やる気・本気であることに鑑み、2008年の開講から3年目となる今回（昨年10月実施）の研修では、初めて研修対象者を経営者層としました。2008年にイ・ミョンバク大統領が、「低炭素・緑色成長」を韓国の主要テーマに打ち出してから、韓国中小企業の姿勢が変わってきているように見えます。今回は、経営者層が自社の環境経営に、あるいは3R*などの環境ビジネスへの参入を窺うといった積極的な姿勢が目についた研修となりました。北九州市で開催された西日本最大級の環境技術展『エコテクノ2010～地球環境・新エネルギー技術展＆セミナー～』に合わせて日程を編成し、半日をこの見学に充てました。訪問した研修企業6社のうち、4社を中小企業として、それぞれの社長にご説明とQ&Aをお願いして、経営者同志の意見交換ができるようにしたのも特徴です。

研修員の遠慮のない質問に、苦笑しながらも丁寧に答えていただいた各社社長の皆様に篤く御礼申し上げます。日本独自のしくみである「エコアクション21**」に関心が集まり、韓国でも取り入れたいとの声も出ていました。今回の研修で得られたものを少しでも企業活動に活かせてもらえればと期待しています。

15名全員が北九州市は初めて（うち2人は日本訪問も初めて）ということでしたが、紫川や門司港の水の美しさに驚いていました。宿泊ホテルの周辺にある勝山公園で連日早朝の散歩を楽しんだという人もいて、北九州市は住み続けたい街ですと「環境都市」として高く評価されたのは、嬉しいことでした。

*3R：Reduce（ごみの発生抑制）、Reuse（再使用）、Recycle（再資源化）

**エコアクション21：全ての事業者が、環境への取り組みを効果的、効率的に行うことを目的に、環境省が定めた環境経営システムに対する指針

TOTO(株)小倉第二工場では、環境経営の基本「5S」とムダをなくした「セル生産方式」を学びました。

西日本家電リサイクル(株)では、3Rの実際を勉強しました。

「メカトロニクス・ロボット実践技術」を開講して

KITAコースリーダー　谷口　政隆

本コースは昨年度開設したコースで、1月の寒い冬に始まり、桜の季節、新緑の候と日本で最も快適な季節に終わる約4カ月間のコースです。昨年度はアジア、中南米、アフリカから6名の研修員がメカトロの実務教育を受講し、また日本の文化に触れ大いに満足して帰国しました。現在の産業界では従来の単一分野（機械・電気・制御・コンピューター）からそれらを統合化した複数分野（メカトロニクス、ロボティクス技術）の知識・技術を持った生産システム全体を把握できる技術者が求められています。幸いに、北九州地区はメカトロニクス発祥の地であり、それらに関連する産業・教育機関が多数あり、教育環境に恵まれています。

この研修の内容は実習50%、講義40%、工場・学校訪問10%と多種の器具・装置を使った実習に重点を置いています。右記写真の研修の他に、PIC*を使った制御機器の制御プログラミング、PLC**によるミニプラント装置の制御、MATLAB***を使ったシミュレーション演習など多種の教材を使い、メカトロニクスに関する実習を行います。本コースで学んだ技術が研修員の産業界の発展に役立つものと確信しています。

*PIC：Peripheral Interface Controller

**PLC：Programmable Logic Controller

***MATLAB：MATrix LABoratory、米国MathWorks社開発の数値解析用ソフトウェア

ダイキン工業（株）での研修を終えて

（株）安川電機でのロボットアームの操作実習風景

「非破壊検査技術を利用した保全管理」コース紹介

KITAコースリーダー　外山　弘

1993年度開設の「非破壊検査を中心としたライフライン施設の保全管理技術」コースは、昨年度まで17回開講し、好評で応募者も多く累計応募者305名に対し133名が研修しました。非破壊検査とは、金属などの試験体を切断したり、傷つけずに全体の健全性を調べる技術です。当技術を金属材料、各種機器、設備、構造物に適用すれば、経年に伴う損傷の早期発見、不測の事故未然防止と寿命延長を図ることができます。

本コースでは以下の内容を研修します。

① 金属材料における欠陥発生メカニズム
② 各種非破壊検査の基礎的理論と実技習得
③ 使用目的に応じた適切な検査方法の選択技術
④ 検査結果の評価、分析に必要な技術
⑤ 各種ライフライン施設の検査、補修、保全管理技術
⑥ 日本の優れた、実際の工場現場での適用状況や世界的な機器メーカーの工場見学など

また、本コースでは、非破壊検査技術の中で活用度の高い超音波探傷検査技術について、ASNT（米国非破壊検査協会）レベルⅡの認定試験と資格授与を行っています。

発展途上国にとって、品質の良い製品を安定して計画通りに製造するための検査はもちろん、発電設備、圧力容器、パイプライン、更には鉄道、航空機、橋梁、ビルなどの検査と保全は、近年の大型化、高速化、高負荷化などの条件の中で、生産、安全、コスト、環境面からますます重要になってきている技術です。今春には、我が国のODA有償案件対象国への初の開講を予定しています。

現場での鋳鋼品の磁粉探傷検査研修風景

放射線透過試験の実技研修風景

「南米地域・中小企業地場産業活性化研修コース」の人気の秘訣

KITAコースリーダー／価値創造経営研究所代表　三木　義男

2006年開設の本コースは、南米地域各国内の地域（地場）を豊かにし、地域間格差解消に貢献することを目的としています。研修では我が国の中小企業支援・地場産業育成の経験・ノウハウを伝え、南米各国において中小企業振興・地場産業活性化に関わる担当者の能力強化を図っています。本コースは人気があり、昨年8月に開講した2010年度の応募者数は募集の2.5倍でした。

では、研修員にとっての本コースの魅力について探ってみます。

1）カリキュラムの豊富さ

研修メニューが質量共に豊富で、奥深いことです。すなわち、開催期間が1カ月と短い中で、研修内容は創造的思考法である「ブレイクスルー思考」のワークショップ、北九州地域の中小企業視察や行政の役割の講義、また地域活性化の真髄としての産学官連携、農商工連携、ベンチャービジネスの座学と視察、そして、大分一村一品（OVOP）現地視察などです。

2）カウンターパートとの連携

最近南米各国では、国策として中小企業地場産業の育成強化が図られています。この動きのもとで、本コースにその中核となる人材が参加し、自らの研修を通して研修の意義と効用を体感し、帰国後には研修成果や研修の必要性を広めています。これらのバックボーンには、中小企業・地場産業の育成強化活動を支援しているJICA専門家がオブザーバーとして数日間本研修に参加し、その後現地での参加者推薦をしていることもあり、人気の支えとなっています。

大分農業文化公園にてパラグアイJICA派遣経験者の講話を聴く

チリJICA専門家が参加したワークショップ

福岡県国際環境人材育成研修「アジア循環社会創造コース」に携わって～ ゴミの山は宝の山 ～

KITAアシスタントコースリーダー　宮本　綾乃

本コースでは福岡県がアジア諸国で環境政策に携わる中核行政官を招へいして、県内の環境技術を講義と現場研修で学びます。

昨春、筆者は初めて環境分野に携わり研修員を引率して、福岡県南西部の大木町や北九州エコタウンなどを訪れ、家庭や企業から排出されたゴミが“資源”として活用される様子を見学し、「ゴミの山は宝の山」を実感しました。

大木町では、地域住民の協力により21種類に分別されたゴミがすべて再資源化されていることや、同町循環センター「くるるん」のメタン発酵設備では、回収された生ごみ、し尿や浄化槽汚泥がエネルギーや有機肥料として再利用されていることを学びました。また、北九州エコタウンでは、廃自動車や廃家電の大きな山が、1つずつ解体、部品回収され、新しい原材料として再生されるプロセスを見学し、廃棄物ゼロの社会に向けて、幅広い分野でリサイクルが実施されていることを研修しました。

今後とも本研修を通じて、アジア地域との人材ネットワークの輪を広げ、循環型社会形成に貢献していきたいと考えています。

おおき循環センター「くるるん」メタン発酵設備の研修を終えて

福岡県庁での研修を終えて（筆者と研修員）

最近6カ月間（2010年7月～12月）に終了した研修コース　2010年12月末現在　合計297名

研修コース凡例　JICA 集団研修　JICA 地域別研修　JICA 国別研修　KITA 個別研修

	研修コース名	受託先機関など	KITAコースリーダー／（アシスタントコースリーダー）	KITA研修期間（月/日）	研修人数
環境対策	産業廃水処理技術 II	JICA	荒川	7/30～11/25	7
	生活排水対策	JICA	米澤	9/02～12/10	7
	市民参加型廃棄物管理研修	JICA	原口	9/09～10/29	7
	南東欧地域 クリーナープロダクション振興	JICA	西野	10/15～11/19	8
	KOICA-JICA 大気環境保全管理	JICA	西野	8/30～9/10	14
	KOICA-JICA 東アジア環境・省エネルギー政策と技術	JICA	川合	10/18～10/28	12
	廃棄物管理技術と環境教育（A）	JICA	指輪	6/24～9/10	9
	大気汚染源管理	JICA	貴戸	10/19～12/17	7
	中国 天津市 環境教育連携促進	JICA	南	8/24～9/08	15
	フィージー国 3R促進	JICA	川合	9/01～9/10	10
	ベトナム　下水道経営	JICA	矢頭	11/04～11/19	11
	インド　青年研修インド都市環境管理	JICA	南	11/08～11/20	20
	韓国 環境・省エネルギー経営者セミナー	（財）日韓産業技術協力財団	石井／和田	10/11～10/15	15
生産技術、設備保全	生産保全によるクリーナープロダクション（A）	JICA	石川／（尾野）	8/09～11/19	7
	中南米地域 プロセス工業 におけるCP（A）	JICA	安部／（福森）	8/23～11/25	7
	メルコスール地域 省エネルギー技術	JICA	川口／（植山）	10/05～10/22	10
	中南米地域 生産性向上活動普及（A）	JICA	河崎	6/07～7/23	7
	中南米地域 生産性向上活動普及（B）	JICA	河崎	8/30～10/19	5
	アルゼンチン 製鉄業におけるCP	JICA	上野／（久保）	7/06～8/06	3
	インド 省エネルギー技術（1）	JICA	植山／（川口）	7/07～8/06	14
	インド 省エネルギー技術（2）	JICA	田中／（植山）	8/24～9/24	16
	ベトナム 生産性向上のための実践的経営管理	JICA	力丸／（渡辺）	10/18～10/29	11
	マレーシア 自動車部品産業強化	テンプスタッフ/経済産業省	北田／和田	10/25～12/03	20
循環型社会	アジア 循環社会創造（ASEAN・インド）	（財）福岡県環境保全公社	田嶋／（宮本綾乃）	11/22～12/17	6
	アジア 循環社会創造（中国）	（財）福岡県環境保全公社	貴戸／（宮本綾乃）	8/23～9/16	7
職業訓練、地域活性化	勤労者のための産業保健と予防医療	JICA	高橋	8/16～12/03	4
	南米地域 中小企業地場産業活性化研修	JICA	三木	8/04～8/27	13
	労働災害防止活動強化	JICA	植山	11/10～12/17	6
	日系研修地域活性化研修	JICA	三木	9/13～9/30	6
アジアの環境人材育成	中国・昆明市 水環境改善研修	中国昆明市	鶴田	7/25～8/8	6
	中国・昆明市 水環境改善研修	中国昆明市	鶴田	12/12～12/26	6
	自治体職員協力交流事業研修［CLAIR研修（環境保全）］	北九州市	中津	6/24～12/4	1

●なお、研修コースの詳細、年間スケジュールは KITAのホームページ（ http://www.kita.or.jp/ ）でもご覧になれます。

ロシア・ウラル地方との貿易促進支援事業その後の進展

KITA副理事長　工藤　和也

ROTOBO*が2006年から進めているロシア・ウラル地方と日本企業の貿易促進事業において、KITAはロシア側のニーズに対して北九州側企業が提示できる技術の選択と技術移転の指導を行っています。2009年3月、エカテリンブルグおよびチェリャビンスクで開催された鉄鋼関連セミナーに北九州企業6社が参加し、北九州の技術を大々的に紹介しました。それ以降、ロシア側のエンジニアリング会社（ギプロメス社、マシプロム社）などを通して技術移転が着々と進展しています。

ウラル地方のニジニタギル、マグニトゴルスク、メチェルなどの大型製鉄所では、今後数年間に老朽設備の更新や新設が多数計画されています。残念ながら、主要設備のマーケットはヨーロッパ勢に握られているようです。しかし、ロシア側から北九州企業が評価・期待されている技術は、品質向上、作業性改善、長寿命化および省資源・環境改善などに資する設備・付帯技術であり、使用試験または設備化計画のための契約交渉が現在ロシア製鉄会社との間で進められています。具体的には、大光炉材（株）の不定形耐火物（実機テスト予定）、三島光産（株）の長寿命連続鋳造モールド（納入予定）、日本サーモケミカル（株）の連続鋳造用パウダーサンプル（出荷済み）、（株）フジコーの棒鋼工場用長寿命圧延ロール（納入予定）、（株）戸畑製作所は高炉羽口・転炉ランスノズル（使用試験用受注）、日本磁力選鉱（株）は転炉スラグ処理設備（契約待ち）などです。

* ROTOBO：Japan Association for Trade with Russian & NIS、ロシアＮＩＳ貿易会

メチェル製鉄所の転炉工場

ニジニタギル製鉄所の圧延ライン

フィリピン・メトロセブ地域におけるコンポストセミナーの実施について

KITA環境協力センター　中津　光代

昨年7月に引き続き、2回目の活動として、昨秋現地へ赴きました。今回は、セブ市など行政機関及びパクダンバヤヨン財団（PFI）などのNGO他関係者の協力のもと、選定した8つのモデル地域に対して、コンポストの専門家である株式会社ジェイペックの高倉弘二氏をお招きして、コンポストセミナー及び種コンポスト作成の実演を行いました。

11月3日からの2日間、1日2回の計4回実施し、総勢200名を超える参加者があり、大変好評を得ました。講義内容は一般市民向けでしたが、具体的な質問をする参加者や、専門的な内容を得ようとする大学関係者もおられ、コンポストに取り組む積極的な姿が印象的でした。また、種コンポストのフォローアップでは、セブ市担当職員がすっかり作業手順や留意点を身につけ、状態の善し悪しも判断できるようになっていきました。さらに、現地大学生の協力を得て、家庭から出る廃棄物に関するアンケート調査も行いました。

最終日に行った関係者との協議では、さらに詳細な技術的セミナーや、日本での受入研修などの実施について要望が出されました。

次回は新春の1月を目途に現地を訪問し、①アンケートによる効果分析、②既存のミミズコンポストとのコラボレーションの検討、③企業・行政に影響力のある婦人会、経済的支援を得られるスポンサーなどとの協力体制づくりを進めていく予定です。

マンバリン町内会でのコンポストセミナーの参加者と筆者ら

種コンポスト作成トレーニングの風景

ベトナム・ハイフォン市における環境人材の育成支援事業について

KITA環境協力センター　中 村　尚 夫

当事業は2009年度よりJICA草の根技術協力事業として、専門家派遣や受入研修を通じて、ハイフォン市行政官の人材育成を図り、環境保全や省エネ、省資源を進めることを目的としています。

最終年度となる2010年度は3回の専門家派遣を予定しており、7月初旬に1回目の派遣を行いました。同市の主要エネルギー消費企業59社の中から造船や鉄鋼など4社を訪問し、省エネ・省資源への取り組み状況や環境問題などについて調査しました。また、企業への指導や支援の仕組みの整備に向け、関係機関と問題点や方向性について協議を行いました。2回目の11月には、モデル企業（造船会社、製鐵会社）2社に対する現状調査とCP（クリーナープロダクション）を用いた省エネ・省資源対策に関するアドバイスを行ったほか、ハイフォン市に対して企業に対する省エネ促進制度や支援策に関する提言を行いました。

本年2月頃には3回目の専門家派遣を実施しモデル企業に対する省エネ・省資源対策のアフターフォローを行うともに、普及セミナーを開催を予定しています。セミナーでは、モデル企業の取り組みやベトナム開発銀行のファンドなどの紹介を通して、ハイフォン市のその他主要企業に対して省エネ・省資源への取り組みを普及していきます。

造船会社にて省エネ、省資源への取り組み状況をヒアリング

造船会社内の見学（溶接済のパーツ）

ベトナム・ダナン市で開催の「第2回戦略的水・資源循環育成シンポジウム」に参加

KITA環境協力センター　堀　俊 孝

昨年9月23、24日ベトナム・ダナン市で開かれたシンポジウム「第2回戦略的水・循環資源循環リーダー育成シンポジウム」（主催：北九州市立大学、ダナン工科大学、ダナン市環境局）に参加し、『北九州市における持続可能な水・資源循環の取り組み及び北九州市の国際環境協力』の演題で発表を行いました。

シンポジウムには日本・ベトナム合わせて14名の発表者が参加し、その顔ぶれも大学だけでなく行政機関や日系のメーカー、JICAベトナム事務所の代表と多彩であり、水資源への関心の高さがうかがえました。

筆者の発表に対してベトナム側の座長から「北九州市の環境協力への取り組みぶりは顕著である。自分も今春訪れて実感した。」と率直な評価をいただきました。

またシンポジウムでの発表に先立ち、ダナン市の廃棄物収集の実態やごみの最終処分場、下水処理場を視察する機会にも恵まれ、経済発展著しいベトナムも都市型廃棄物処理の問題に直面している実態も知ることができました。

最後になりますが、ダナンはベトナム戦争時のアメリカ海兵隊の上陸地としても有名ですが、今は欧米からの観光客も多く、ベトナム中部のリゾート地として今後の発展が期待されています。環境国際協力を安心して行える平和の大切さを改めてかみしめた次第です。

戦略的水・循環資源循環リーダー育成シンポジウムで発表中の筆者

シンポジウム風景

北九州メンテナンス技術研究会（KME） 平成22年度　総会・講演会開催

KITA生産性協力センター　関　義明

北九州メンテナンス技術研究会（KME）の平成22年度総会・講演会は、7月15日（木）に八幡東区平野の新日本製鐵㈱八幡労働会館の2階大会議室で行われました。

総会では、河野KITA理事長、川崎KME会長の挨拶につづき「平成21年度事業報告及び平成22年度事業計画」が審議され、事務局原案通り承認されました。

総会終了後2人の講師による講演会が行われ、会員企業の役員、管理職、技術者他57人が出席し、盛会裡に終了しました。演題及び講師は次の通りです。

①『低炭素化社会実現に向けた北九州市のエネルギー政策』
北九州市環境局
環境モデル都市推進室　次長　櫃本 礼二氏

②『山九の人財育成と技術・技能の伝承』
山九株式会社　技術・開発本部品質保証部
溶接センター係長　堀川 英樹氏

今回の講演は、北九州市環境局環境モデル都市推進室の櫃本次長から北九州市が低炭素化社会実現に向けて取り組んでいる、新エネルギーの積極導入、従来エネルギーの効率化など様々な北九州市の施策についてご講演いただきました。また、山九株式会社の堀川氏からは自社での能力開発システムでの技術・技能伝承の考え方及び溶接技能向上プロセスを例として山九株式会社独自の人財育成の実際例についてご講演いただきました。両講演ともに質問も多くあり、各企業の参加者にとって大いに参考にしていただけるご講演でした。

また、現在当技術研究会（KME）では新規会員の募集をしています。廉価な年会費と受講料にて上記総会・講演会の他、年7回の設備保全技術セミナーや年6回の予知保全研究部会を実施しています。入会を希望される企業・団体はKITAの窓口（担当　関）にご連絡ください。

KME総会・講演会風景

「KMEセミナー」平成22年度受講実績（平成22年12月末現在）

	セミナー名	講　師	実施月日	受講実績	
				会社数	受講者数
①	疲労・強度	（有）浦島テクノサービス 代表取締役　浦島 親行氏 佐賀大学 名誉教授　西田 新一氏	5月13、14日 5月20、21日	13社	17名
②	腐食・防食	久留米工業高専　教授　田中 慎一氏 日鉄環境エンジニアリング（株）部長　井上 政春氏 （株）材料・環境研究所　代表取締役　長野 博夫氏	6月10日 6月16日 6月17日	13社	17名
③	溶接技術	九州工業大学 名誉教授　加藤 光昭氏 九州工業大学大学院 客員教授　安西 敏雄氏	7月21日 7月22日	10社	15名
④	トライボロジー（摩擦、磨耗、潤滑）	早稲田大学大学院 教授　松本　將氏	8月26、27日	12社	17名
⑤	モータ・インバータ制御技術	（株）安川電機　（モータ制御）　山崎　明氏 同　上　（インバータ制御）　山川 孝之氏	9月29日 9月30日	9社	12名
⑥	初歩の油圧技術	ボッシュ・レックスロス（株）営業本部 課長　善如寺 誠氏	11月4、5日	8社	25名
⑦	設備診断技術	日本診断工学研究所　代表研究者　豊田 利夫氏	平成23年 1月26、27日	9社	23名
合　計				74社	126名

（注）合計は延べ数字。

ホームビジットから広がる国際交流　～ ホストファミリー（HF）に感謝 ～

KITA事務局　菅 原　裕 子

ホームビジットを支えてくださるホストファミリー（HF）の皆様、新春のお慶びを申し上げます。

KITAの国際親善事業へのご協力に対し心より感謝申し上げます。KITAニュース新春号紙面を借り、以下に研修員の感激の声と感謝の気持ちを少しでもお届けできましたら光栄です。

ホームビジット当日は、14時が待ち合わせ時刻です。研修員は期待と不安の表情を見せながらホストファミリーとの出会いを待っています。　「服装は？」、「お土産は？」、「お土産を渡すタイミングは？」KITA職員に尋ねてくる研修員は緊張の面持ちです。受け入れの後、研修員には「楽しんでもらったのかしら？」と気にかけておられるHFの皆様。お互いに相手を気遣う心が国際理解の第一歩だと気づかされます。

研修員からのメッセージを綴りましょう。

・日常生活を垣間見る素晴らしい機会に感謝、この出会いは最高の贈り物です。
・子供たちと過ごせた時間が楽しく、まるで自宅にいるかのようでした。
・アイスホッケーの練習場へ初めて行き、寒かったのですがそれがとても面白かったです。
・スーパー銭湯の温泉、露天風呂に初めて行き、興奮しました！！　日本酒も初めての経験です。
・「自分は訪問客としてふさわしかったのでしょうか？」など謙虚な男性研修員もいらっしゃいます。
・「HFを続けて欲しい。あなたは人を笑顔にする女性だから」と言葉を贈り、My Momと「日本のおかあさん」に、自国での再会を約束した研修員には、心温まるものを感じました。
・着物呉服店で試着体験後、記念撮影した思い出や折り紙・おしゃべりの楽しいひと時は、宝のような時間でした。
・小さなお子さんとともにグリーンパークでカンガルーを見て触れた初めての経験に感激しました。

ホームビジットの不安はHFと過ごしたことで吹き飛んでしまったという感謝のメッセージばかりです。

家庭は人の心を癒す世界共通の居場所です。それに加えて日本人の「おもてなしのこころ」は最高だと感じます。「一期一会」のすてきな出会いがありますようにと願いつつ、本年もよろしくお願い致します。

ホームパーティに招待され、ニコニコ顔のフィリピンからの研修員

KITAの国際親善バスハイク　～ 国際ソロプチミストの皆様に感謝～

KITA事務局　菅 原　裕 子

国際ボランティア組織の国際ソロプチミストの皆様には、KITAの事業趣旨を深くご理解いただき、設立以来KITA研修員をホームパーティやバスハイクへ招待していただき、北九州市での思い出作りに大きく協力していただいています。

昨年10月30日（土）は台風ニアミスにより予定変更を余儀なくされましたが、国際ソロプチミスト北九州から助成をいただき、研修員21名、ソロプチミストの皆様6名で下関市の海響館と国指定重要文化財（アール・ヌーヴォーの館）の秋の一般公開で賑わう北九州市の西日本工業倶楽部へ行ってきました。くじ引きによるプレゼントは研修員にとって思いがけないイベントで、会長からプレゼントを手渡された時の研修員は満面の笑顔で自然に握手を交わしていました。また、ソロプチミストの皆様と女性研修員が手をつなぎ、一緒に海響館を見て楽しむ姿はほほえましく、すっかり家族のように親しみをもっているように見受けられました。また、男性研修員もレディに対する配慮はなかなかなものです。やさしい言葉をかけていました。

研修員には末永く日本ファンになって貰いたいと願うと同時に、帰国後は社会貢献につながる活躍をしてくれると信じています。

KITAの国際親善はボランティア団体、市民の皆様に支えられていると実感した一日でした。

下関市の海響館（水族館）において

プレゼントを手渡され、笑顔の研修員

KITAニュース No.35 2011年1月1日発行

北九州市とロシア・チェリャビンスク市が経済交流協定を締結

KITA副理事長　工藤　和也

ROTOBO*の支援のもとに、KITAは2006年から両市の行政機関、民間企業の交流を通じて、技術・経済交流を積極的に推進してきました。幾つかの企業においては製品のトライアルが行われる見通しとなりました。さらに友好的な交流を促進するため、昨年6月チェリャビンスク市でのROTOBOフォーラム会場において両市が経済交流協定を締結しました。

締結後の昨年11月には、北九州市から鉄鋼・環境関連ミッションが同市を訪れ、また昨年末にはチェリャビンスクからは同州副知事以下の経済ミッションが来日するなどますます交流が加速されています。

* ROTOBO：Japan Association for Trade with Russian & NIS、ロシアＮＩＳ貿易会

北九州市とチェリャビンスク市の経済交流協定締結式典

「エコスタイルタウン2010」へ出展　市民と交流

KITA環境協力センター　永石　昌也

毎日の暮らしの中で環境活動に取り組む市民団体や企業のみなさんが大集合し、スローフードや環境商品の展示・販売、ワークショップなどを通して日常生活に密着した環境にやさしいライフスタイルを提案するイベント「北九州エコスタイルタウン2010」（10月16～17日）が、北九州市で開催されました。

KITA環境協力センターは、アジア低炭素化センターの一員としてブースを出展しました。2日間で、企業・NGO関係者、家族連れを含めた市民の方々など約240名がブースを訪れ、センターの日頃の活動状況の報告や、国際協力・地球温暖化防止に関するクイズなどを楽しんでいきました。

大勢の市民が訪れたブースの様子

地球温暖化問題について高校生と交流（廣野塾）

KITA環境協力センター　村上　能崇

KITA環境協力センターは昨年8月の2日間、国際機関などで要職を歴任され現在も政府顧問などでご活躍中の廣野良吉成蹊大学名誉教授を講師に迎え、福岡県立小倉高等学校1年生に地球温暖化問題について講義とグループ討議（廣野塾）を行いました。

この企画は、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の一環として実施しました。講義では『アジア諸国における環境に優しい街づくり』について最新の情報を使って、わかりやすく解説していただきました。また、グループ討議では生徒が発表した『途上国における持続可能な地球環境に配慮した発展』について、廣野先生と生徒が活発な意見交換を行いました。生徒は地球温暖化の深刻さ及び国際的に低炭素社会をめざすことの重要性について認識をより深めることができました。

福岡県立小倉高等学校1年生との意見交換会

KITAニュース No.35（第35号）
2011年1月1日発行
発行：財団法人北九州国際技術協力協会　編集発行人：事務局長　藤原 直捷
〒805-0062　北九州市八幡東区平野一丁目1番1号　国際村交流センター4階
TEL：093-662-7171　FAX：093-662-7177
E-mail：info@kita.or.jp

●右記Web site（KITAホームページ）には、KITAのご案内、活動、過去のKITAニュースなどを掲載していますのでご覧下さい。